



【1】一種研開催報告

2026年9月的一种研を9月9日(水)～11日(金)の3日間にわたって石川県立図書館で開催しました。今回は、マイクロ波研究会(MW)との併催であり、各研究会の一般講演の他、AP研伝搬オーガナイズドセッション、AP研フレッシュドクターセッション、AP研チュートリアル講演、IEEE AP-S Nagoya Chapter特別講演、MW研特別講演などを含め、合計40件の講演がありました。

フレッシュドクターセッションは、最近、博士の学位を取得された若手研究者を招待して講演いただくものです。今回は、3名(東北大、東京科学大)の方に博士論文の内容について講演いただきました。講演の後、今井委員長より記念品が送られました(写真1)。今後もAP研でのご活躍を期待いたします。

AP研チュートリアル講演は2件あり、東京科学大の藤井輝也先生には「移動通信における“時間・空間電波伝搬モデル”～三次元空間セル構成への拡張への期待～」と題して講演いただきました(写真2(a))。移動通信での実験式を説明する時空間伝搬モデルの構築方法や上空の電波伝搬モデルの提案内容について解説いただきました。若い人に向けて三次元時空間モデルの構築を期待すると仰っていました。NTTドコモの須山聡様には「日本におけるISACに関する研究開発動向～XGモバイル推進フォーラムの取り組みを中心に～」と題して講演いただきました(写真2(b))。XGMFでの6G無線プロジェクトのWG活動やISACの標準化動向や技術動向についてご紹介いただきました。

IEEE AP-S Nagoya Chapter特別講演では、金沢工業大学の橋本博幸先生に「金沢工業大学におけるエネルギーマネジメントシステムの取り組み」と題して講演いただきました(写真3)。白山麓キャンパスでのカーボンニュートラルの実証実験、扇が丘キャンパスでの直流スマートグリッドの稼働状況について紹介いただきました。キャンパス自体がGXの教材であり、人材育成に活用している点を強調されておりました。

最後に、MW研との併催は、例年は9月に実施してきましたが、来年から4月での開催を検討することになったことをご報告いたします。

【2】IEEE AP-S MGA Lecture Event in Japan 報告

9月11日(金)の午後、AP研の後に、IEEE AP-Sの日本の4チャプターおよびTC1～3の共催で、Member and Geographic Activity (MGA) レクチャーイベントが開催され

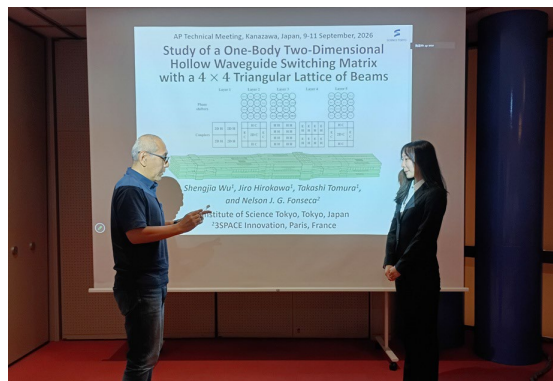
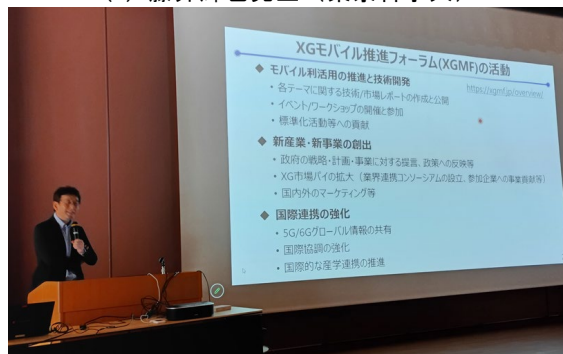


写真1 フレッシュドクターセッション
(左から今井委員長、東京科学大 Wu 様)



(a) 藤井輝也先生(東京科学大)



(b) 須山聡様(NTTドコモ)

写真2 AP研チュートリアル講演



写真3 IEEE AP-S Nagoya Chapter 特別講演
(金沢工業大 橋本博幸先生)

ました。今回で3回目の開催となります。Recent Trends and Challenges in Antennas and Propagation Technologies by IEEE AP-S Representatives と題して、アンテナ・伝搬の最新の研究内容に関する講演がありました。AP-Sのプレジデントである Dr. C.J. Reddy をはじめ7名の海外ゲストの講演と、日本からは、伊藤先生と広川先生のShort Talkと、北先生、佐野先生の講演がありました(写真4)。講演終了後、ANAクラウンプラザホテル金沢に場所を移してChapter Chair Dinner Meeting が行われました。夕食を囲みながら、各チャプターの活動報告、AP研の紹介が行われ、楽しく活発なディスカッションが行われました。

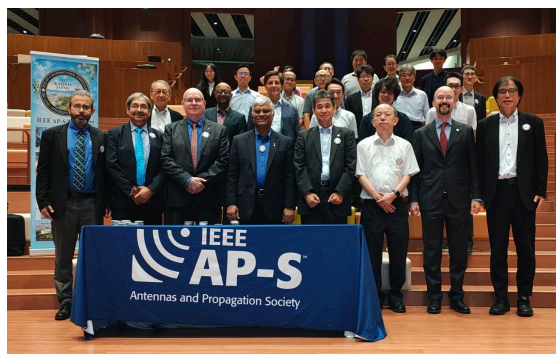


写真4 IEEE AP-S MGA Lecture Event

【3】電子情報通信学会ソサイエティ大会報告

9月23日(水)～25日(金)に、2026年電子情報通信学会ソサイエティ大会が北海道大学にて開催されました。連休を含んだ日程でしたが、多くの方に参加いただきました。A・P研関係の投稿件数は合計141件で、昨年度の120件と比べると21件増加し、一昨年並みの発表数になりました。[B-1A:5セッション(29件), B-1B:10セッション(59件), B-1C:8セッション(47件), BI-1:2セッション(6件)]。



写真5 AP研60周年企画セッション

AP研執行部で企画した、AP研60周年企画セッションでは、60周年にちなんで還暦に近い方6名に講演をいただきました(写真5)。それぞれの講演は、独自の研究領域での先進的な内容ばかりでした。

【4】副委員長の戯言

◆金沢の噴水

今回のAP研は金沢で開催されましたが、金沢駅や石川県立図書館は評判通りとても美しい建物でした。AP研に参加しつつ、いろんな場所を観光された方も多かったのではないのでしょうか。開催期間中に戸村先生から「兼六園には日本最古の噴水があって、完全パッシブなんですよ。」と教えていただきました(写真6(a))。パッシブとはどういうことか



(a) 兼六園の噴水 (戸村先生撮影)



(b) 金沢駅兼六園口噴水時計

写真6 金沢の噴水

というと、ポンプなどの動力を使わず、近くの水源である霞ヶ池との高低差による水圧のみで水が約3.5mの高さに噴き上がっているということです。幕末の1861年にそれを実現したのは驚きですね。

また、金沢から帰る際に、金沢駅前の噴水時計が目にとまりました(写真6(b))。最初は時計のデジタル表示は瞬く光のように見えたのですが、近くで見ると小さな噴水の集まりでできていて、それが揺れ動いているので瞬くように見えており面白いなと思いました。時計表示だけでなく文字表示(WELCOMEなど)もできて、一定時間毎に表示が変わるので飽きずに見ていました。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 大島 一郎 (電気興業)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

